

日本製造業の近代化を推進した 米国出身技術者 ウィリアム・R・ゴーハム

渡部技術士事務所 渡部厚夫*

大正から戦後にかけて、機械工場の技術顧問として日本機械工業の発展に貢献した米国出身の技術家ウィリアム・R・ゴーハム（1888～1949）（図1）は2020年で没後70年が過ぎた。ゴーハムは日本の企業で数々の事業に参画し、三輪自動車の設計・製作、自動車工場の設計から、大量生産方式、互換性方式、デーリー・プロダクションなどを指導し日本工業の発展に多大な貢献をした。指導した産業は自動車のほか、工作機械、カメラなど幅広く、傑出した指導が評価された。しかし、ゴーハムは技術者、技術家であり、著述家でもなければ財界人でもないため、彼の名前はほとんど知ら

れていない。

ゴーハムの来日理由

ゴーハムは、飛行機エンジンの設計・製造のエンジニアだった。ヒールド技術大学に入学し、電気科を卒業している。彼の機械趣味は12歳の頃から玩具の域を脱して、自動車の運転免許証の交付を受けている。そして、ポンプ、小型ガソリン・エンジン、木造四輪車などを製作し、23歳でヘーゼルと結婚。1903（明治36）年にライト兄弟が飛行機を発明してから13年後の28歳のとき、150馬力の航空機エンジンの開発に成功した。米国政府による公式試験にも合格し、順風満帆だった。しかし、米国政府の採用はもう1つのリバーティ・エンジンに決定したため、奈落の底に突き落とされた。航空機エンジンを生産する夢は日本での実現へと移っていった。ゴーハムは30歳のとき、2人の子供を連れて家族4人と、曲芸飛行のパイロットと共に来日した。

ゴーハムに相談するとすぐ机の上で図面をひく。ただちに機械のハンドルを握って操作して見せる。そして、ただちに実行に移すことができるプランを立てる。構想はコンコンとして湧いて止まらない。そうした技術力の高さが当時の顧客に評価された。日本の飛行機産業は時期尚早とわかると、人力車をモデルにした三輪自動車を設計・製作し、1台目を足が不自由だった博覧会キングとよばれ興行師の櫛引弓人（ゆみんど）にプレゼントした。しかし、自動車も時期尚早のため、一旦、日本産業の鮎川義介の計らいで戸畑鋳物に入り自動車づ

*わたなべ あつお：所長、技術士（機械部門）
〒300-1231 茨城県牛久市猪子町 992-300
TEL：029-874-5630
E-mail：pat.watanabe@jcom.home.ne.jp



主な関係会社

1. 実用自動車
三輪自動車、ダットサン
2. 戸畑鋳物
トバタ発電機
3. 東亜電機
電動工具、削岩機、グラインダー
4. 日産自動車
ダットサン
5. 国産精機
タレット旋盤、互換性方式
6. 日立精機
タレット旋盤のシリーズ化
7. 日産自動車
ダットサンの大量生産
8. 富士自動車
トラック・ジープの更生
9. ゴーハム EG
コンサルティング（技術指導）

図1 ゴーハム氏と主な関係会社